

## 宇仁ふれあいバスの取材を受けました

1月15日(金)、福知山公立大学地域経営学部4回生で多自然圏活性化研究室の森岡さんが「宇仁ふれあいバス」の取材に来訪されました。研究室では過疎化が進んでいる地域の交通手段について研究されていて、論文作成の一環として新たに発足した地域公共交通の状況について取材に来られたもので、前日には加西市役所および原始人会が管理を担う「はっぴーバス」の取材もされていました。

主な取材内容は、①「宇仁ふれあいバス」を運行するに至った経緯、②現在の運行状況、等でしたので以下のような説明を行いました。

- ① 高齢化が進む中、公共交通便(民間会社のバスなど)の減少に伴って高齢者の移動手段を確保する必要性が高まったことより、平成28年4月から加西市役所と「地域主体型公共交通」の運行に関する打合せを開始し、先行して運行を行っている地域への視察や地域住民へのアンケート実施を経て、平成31年4月からまちづくり協議会の中に地域主体型公共交通検討委員会を設置して検討を本格化させ、令和2年9月に「宇仁ふれあいバス部会」を設立、10月から試験運行を開始した。加西市役所との交渉に際しては、加西市にある既存公共交通(民間会社のバスやタクシーなど)との兼ね合いのため、当初計画していた加西市街地への乗り入れが出来なかったことは残念であるが、他市(加東市のAコープ滝野店)への乗り入れが可能となったことが成果として挙げられる。
- ② 現在の利用者人数は当初計画より大幅に少ない状況で、約70人/月となっているが試験運行の状況を検討して、時刻改正などによる利用者の増加対策を行った。現在は、運転員7人、運行管理者4人、事務関係者2人の計13人でふれあいバス部会を運営しており、運営資金は加西市の補助金が大半を占めている。現在の利用者人数は少ないが、今後も高齢化が進んで行く中で移動手段を確保しておく必要性は高く、「宇仁ふれあいバス」を継続していけるよう努力したい。

今回の取材内容に基づき、過疎化が進んでいる地域の交通手段確保の重要性・困難度および地域自治体のバックアップの必要性などに関して論文に反映していただき、今後の地域交通手段確保の助けになって欲しい。

(宇仁ふれあいバス部会)

## ふれあい交流広場より

昨年はコロナで始まり、コロナで終わりました。ふれあい交流広場ではコロナ禍にもめげずふれあい喫茶、小筆教室、ほっとトークを開催(4~6月は休館)してきました。三密にならないよう心掛け、換気を行い、アルコール消毒を徹底して、話しづらくてもマスク着用を心掛けてきました。まだまだコロナには翻弄されるとは思いますが、負けることなく元気に過ごしましょう。



ふれあい喫茶



ほっとトーク

(ふれあい交流広場)

## さくらまつり開催の中止について

コロナ禍の収束が見えない中、今年度のさくらまつりについては昨年同様開催しないことに決定しましたのでお知らせします。

## コロナに負けるな、田谷町の「大とんど」

今年も田谷町では、1月10日にとんどの行事が行われました。町主催で27回目になります。

1年前から町有志によって準備された大量の柴や大小の木が、ひと束づつ、1本づつ積み上げ組み立てられます。さらに当日に切り出した竹を何度もトラックで運び込み、長さや笹を調整し



ながら立てかけます。30人近い人数で、朝8時から昼過ぎまで黙々と作業が続き、「大とんど」が完成します。

完成から数時間後の午後3時には、八王子神社宮司のご祈祷の後、区長さんが本年の恵方から点火。白煙が一気に立ち上り、火柱が上がります。天に飛翔する真つ赤な龍のように見えます。百数十人の参加者は、今年の無病息災や家族、地域の平穩、何よりもコロナの退散を祈念しながら見入っていました。

そして今、すでに有志の皆さんによって、来年度の柴や木々が田谷町農業倉庫前に寄せられています。今回、コロナで参加できなかった芦屋市翠ヶ丘の皆さんを是非迎えたいものです。 (定住促進部会)

## 宇仁郷のあゆみ ≡ 新連載

### まえがき

宇仁郷の歴史を古代から近・現代までをひも解き宇仁郷通信 No.81号～No.130号(平成28年3月(2016)～令和2年(2020)4月)まで4年にわたり掲載してきましたが、今回からは日本の高度成長期の昭和の後半から平成の時代にかけての宇仁郷の変革の足跡と、取り残された諸課題に挑戦された人達を紹介していきます。

第一章は宇仁郷の黎明期。播磨中央公園、アオノリゾートなどの開発により県民の憩いの場がオープンし、人の往来が増加してきました。交通機関も中国縦貫自動車道の開通、JR加古川線の電化により京阪神への利便性が飛躍的に向上し、宇仁郷の人達の行動範囲が随分広くなりました。

また、町道・農道の全面アスファルト化、田谷町のパイロット事業、圃場整備、下水道整備によるトイレの水洗化など、これらの公共事業による地元経済への波及効果は大きく、日常生活においても利便性が向上しました。この時代は宇仁郷の黎明期と言えましょう。

第二章は宇仁郷まちづくり協議会の歩み。取り残された宇仁郷の諸課題は、宇仁小の改築、少子高齢化の進展への対応策、八王子神社と奥山寺を賑わいのある神社仏閣に復活、住みよい町づくりの取り組み等でありました。

平成20年設立の協議会は5部会でスタート。その後活動は継続され10部会に成長し、積年の課題であった高齢者送迎のコミバス「宇仁ふれあいバス」の試験運行が令和2年10月より始まりました。

活動を振り返り「人あり、心あり、絆あり」の多土済々な人達に光を当てその群像を追っていきます。



## 新型コロナウイルスワクチンの接種について

米ファイザー社製の新型コロナウイルス感染症ワクチンが2月14日に特例承認され、接種に向けて準備が開始されています。65歳以上の高齢者への接種開始は早くとも4月1日以降になる見込みで、3月中旬以降に接種券(クーポン券)が対象者に届き、それにもとづいて予約が必要となります。接種費用は無料です。ワクチンは2回接種で、1回目と2回目は同じ製薬会社のワクチンを接種する必要があり、ファイザー社製の場合21日間隔で接種することになります。今後、加西市のホームページや広報誌などを通して、接種場所などの詳細が公表されますのでご確認ください。